

オオトラフトンボ

三橋さんからメールで澄川で撮影されたトンボ達の写真が送られてきました。イトトンボとカワトンボはさておきまして、このオオトラフトンボであります。一見、シオヤトンボやシオカラトンボの♀に似た感じですが、腹部背面の黒筋が先端まで切れ目がないので、オオトラフトンボと判定しました。トラフとは黄色と黒の虎斑模様ということです。左中の写真をご覧ください。腹部側面にはっきりした虎斑ができています。また、後肢が長いのが特徴です。撮影日時は2017年6月18日13時、場所はキャリコ橋付近とのこと。分布は長野県以北の寒冷地なので、九州での昆虫少年だった筆者には出会えたわけありませんので、写真でも初めてお目にかかった次第でありました。澄川森林の生態系は貴重だと改めて教えてくれるトンボであります。



オオトラフトンボと命名されたからには大きくない普通のトラフトンボの存在があるわけで、おなじエゾトンボ科で近縁のようですが、こちらは分布が九州、四国、本州西部で出現時期が4~6月と早く、もちろん北海道には住みません。

同時に送られてきたキタイトンボとオオカワトンボの写真も記載しておきましょう。イトトンボたちは小さいので、同定するには捕獲して上下左右から細かい観察が必要なので、このキタイトンボは暫定としておきます。オオカワトンボは私の愛用している図鑑「札幌の昆虫」では1種類のみが掲載されているだけなので、紛れはありません。下の写真では左がキタイトンボ、右がオオカワトンボです。写真の縮尺で大きさの比較ができませんので、数字ではキタイトンボが30mm前後、オオカワトンボは45~53mmとかなり違います。

澄川精進川湿地はヘイケボタルをはじめスナヤツメウナギ、エゾサンショウウオなど珍しい生き物たちが確認されています。この環境を永く保全するために、考えられる手段を会員の共通課題としてはまずは上流からの濁水防止が優先課題なのです。上流部に沈殿池を掘る。澄川で焼いた木炭を網袋に詰めて流路に沈める。等々の手を打ちたいと思う次第であります。

